

(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	農林水産技術会議事務局研究開発官（環境）	連絡先	03-3502-0536
所管する業務の概要	農林水産試験研究のうち、地球規模の環境問題に対応した農林水産業に係るもの並びに林野及び水産に係るものの推進		

1. 基本的な心構え・行動			
・ 現在行っている取組や工夫		・ 点検によって得られた課題とその改善策	
・ 農水省の全職員に配布されている接遇マニュアルや接遇研修を通して、挨拶、電話の受け答え等の改善に取り組んでいる。日頃の業務においては、職員間の意思疎通を密にして、責任範囲が曖昧にならないようにしている。 ・ 日々の業務では、農水省のビジョン・ステートメントを行動の判断基準とし、接遇マニュアルをその都度確認している。 ・ 担当する業務以外の省全体の政策・事業については、関連する情報の収集、把握に努めている。		< 課題 > 室内のテーブルの上などの整理整頓が良くない。挨拶ができていない職員もいる。 研究開発担当部局として、いわゆる「研究のための研究」に陥らないよう、日頃の業務管理を行っていく必要がある。 業務分担、責任の所在が曖昧な場合がある。誰が担当すれば最善なのかわからない業務が生じる場合がある。 < 改善策 > 職場の環境美化に引き続き取り組むとともに、挨拶の励行を促していく。 業務分担、責任の所在や、担当者の確定に当たって問題が生じないように、その都度職員間で話し合いを行う。	

2. 政策・事業等の企画立案・推進			
・ 現在行っている取組や工夫		・ 点検によって得られた課題とその改善策	

・省内の政策部局からの技術課題の聴取等を定期的に行い、意見、要望を業務に反映するように努めている。また、プロジェクト研究について、外部の専門家の評価等を的確に研究の実施に反映させている。 ・国民の研究開発へのニーズを把握するため、都道府県からの政策提案や要望書等の内容把握に努めている。 ・国内の研究勢力との信頼関係の構築に努めている。	<課題> 当室が担当する環境分野は範囲が広く、その全てに対応することが時間的にも人力的にも困難な場合がある。 <改善策> 担当する研究開発分野の最適な業務推進方法に関し今後も改善を進めるとともに、関係者との意思疎通をさらに密にするよう配慮する。 また、国が推進するプロジェクト研究への参加研究者に対して、シンポジウムや成果発表の場を通じて研究の趣旨を徹底する等の指導を実施していく。
--	--

3. リスク管理			
・ 現在行っている取組や工夫	・ 点検によって得られた課題とその改善策		
・プロジェクト研究を受託した試験研究機関等に対し、業務推進上生じやすい問題とその防止方法等について会議等の機会に説明を実施している。 ・プロジェクト研究の実施上生じやすい問題等については、局内で作成された業務マニュアルを関係者に配布し、適宜説明を行っている。	<課題> 関係者間で業務の進め方に関する理解の醸成に時間を要する場合がある。 省内ではメールの作業依頼が多く、作業内容の軽重の判断が実質的に各担当者に任されており、仕事の見落としが生じる場合が考えられる。 省内の作業依頼メールの内容に関し、前置きの文章が長い、大量のファイルが添付されている等、何の作業を依頼したいのか一読でわからない、解読に長時間を要する場合が多い。 <改善策> 担当する研究開発分野ごとに、運営委員会などを通じて年間計画を作成、逐次点検と見直しを行い、未対応の課題が生じないようにする。 仕事の見落としが生じないよう、メールの発信元に依頼内容の説明を求めるとともに、送られてきたメールの内容につ		

いてはできる限りチェックする。

また、作業依頼を受けた担当者間で改善点を意見交換し、必要に応じて依頼者宛に改善を求める。作業を依頼する職員は、的確、端的でわかりやすい依頼内容で発信するよう努めるべき。

4. 食の安全に関する取組

・ 現在行っている取組や工夫

・ 食の安全の確保は農水省の最優先の課題であり、当室では、特に水産物について、流通過程の汚染プロセスや殺菌・滅菌技術開発に係る研究開発業務を推進している。

・ 点検によって得られた課題とその改善策

< 課題とその改善策 >

この1年間、水産物に関する顕著な中毒事例は報告されていない。

水産物が消費者に届くまでに抱えやすい衛生上のリスクについては、その抜本的な対策技術確立するために必要な研究開発業務を推進している。

また、今後、地球温暖化に伴い発生することが予想される新たな汚染リスクに対応していくため、必要な情報収集を進める。

5. その他の重要な取組

・ 現在行っている取組や工夫

・ 職場の中での率直な意見交換を重視している。そのような雰囲気を率先して作るよう心がけている。

・ 業務が平準化するよう、担当者同士で仕事の分担等をよく話し合いながら業務を行っている。

・ 点検によって得られた課題とその改善策

< 課題 >

当室の担当する環境分野は範囲が広く、学際的な新しい分野でもあり、その全てに対応していくことは容易ではない。

担当する分野の専門性が高く、業務上の突発的な事項が生じた場合、担当者以外の者では機動的に対処することが困難なことがある。

<改善策>

仕事量が集中している担当者の負担減などに職場内で配慮する。勤務の様子を注意して確認する。

各担当者が日頃から担当分野の情報の所在を整理するとともに、緊急時の連絡体制を明確にしておく。

問題意識をもって業務に取り組み、優先的に処理すべき業務を常に把握するよう努める。